

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業概要

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	カンボジア
2. 事業名	カンボジアー日本友好学園における高校生による商品開発を通じた学校運営の実践及びモデル化
3. 事業の背景と必要性	<p>カンボジア王国（以下カ国）では内戦終結後、各国による支援および経済成長に伴い貧困率も半減した。しかし、貧困ラインを脱した人々の収入が大きく向上した訳ではなく、貧困ラインを少し上回る程度の向上にとどまっている。加えて都市部と地方の経済格差は拡大しており、低所得者層の収益安定化・向上が社会安定化の観点から喫緊の課題となっている。特に就労人口の約7割を占める農業セクターでは収益構造改善や産業人材の育成が優先課題となっている。</p> <p>かかる背景のもと、地域の農産物を高付加価値化し、商品化する人材を育成する本事業は、事業対象地域のプレイベン州など農業の高付加価値化および農業以外の就労先が未発達な地域における産業創出につながり、雇用創出や農家の収益構造改善、これに伴う生計安定にも寄与することが期待されるとして、事業対象地域のカンボジアー日本友好学園（以下「友好学園」）より実施団体が有する商品開発教育に対する知見の技術移転の要請がなされたもの。</p>
4. プロジェクト目標	モデル校である友好学園において「商品開発」等の授業を行い、この教育活動から生まれた商品を販売することにより、学校の運営費となる収入を確保することができる。
5. 対象地域	カンボジア王国プレイベン州
6. 受益者層（ターゲットグループ）	カンボジア日本友好学園の教員32名、生徒約1200名
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 商品開発できる教育環境が整う。 企業と連携し販売するルートが確保できる。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 実習用の設備を整備する。 1-2 生徒を指導できる人材を育成する。 1-3 指導用テキストを作成する。 1-4 商品開発を行う生徒のチームを作る。 1-5 徳島商業高校と連携関係を築き、協働で商品開発を行う環境を整える。 2-1 企業とのコーディネートができる人材を育成する。 2-2 企業などとの協力関係を構築する。
8. 実施期間	2013年12月～2016年11月（3年0ヵ月）
9. 事業費概算額	53,278千円
10. 事業の実施体制	<p>日本側：徳島県（徳島県教育委員会、徳島県立徳島商業高校、NPO法人TOKUSHIMA雪花菜工房）</p> <p>カンボジア側：カンボジアー日本友好学園</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体名）	徳島県
2. 対象国との関係、協力実績	<p>徳島商業高校教諭（NPO法人TOKUSHIMA雪花菜工房顧問）が、知人の紹介でカンボジア日本友好学園長と知り合い、2012年現地を訪問する機会を得た。この訪問において、友好学園及びGEAFから教育支援の打診を受けるとともに、カンボジアの現地経済団体から協力が得られることを確認した。2013年1月からは、友好学園と徳島商業高校及びNPO法人TOKUSHIMA雪花菜工房との間でテレビ会議を開催し、支援内容の調整を進めてきたところである。また、徳島商業高校教諭及び徳島県の担当職員が、在大阪カンボジア王国名誉領事館を訪問し、友好学園に対する教育支援を実施したい旨伝えている。</p>